

# 2019年度事業報告書〈抜粋〉

## 1. 法人の概要

### (1) 建学の精神を踏まえて

本学の基本理念は、創立者津田梅子が1900年9月14日、「女子英学塾」の開校式で述べた言葉を受け継ぎ、時代の状況や要請に鑑み発展させてきたものとなっている。

開校式式辞で創立者が挙げた事項は、①教育には何よりも優れた教員と意欲ある学生の存在が要となること、②学生の個性に則った教育を行うため少人数の教育を重視すること、③英語教員の養成を行い、女性に高度な職業人となる機会を提供すること、④高い専門性を修得させるとともに、広い教養を身につけ「オールラウンドな女性」を育成すること、の4点でした。

これらには、津田梅子が留学を通して学んだ、当時としては極めて先進的な考えが示されているが、同時に現実的な目標達成に向けての周到な実行計画が盛り込まれていた。そしてこの教育理念は、119年という長きに亘り本学のバックボーンとなってきた。本学は、急激に変化する社会とグローバル化する世界の状況を踏まえつつ、この建学の精神を基盤にして、今後とも社会のニーズに対応できる教育・研究を発展させ、全人教育に基づいた、人間力豊かな「自立した女性」、「オールラウンドな女性」の育成を実践する。

本学の寄附行為および学則では、大学の目的について、次のとおり規定している。

#### 学校法人津田塾大学寄附行為（抜粋）

第3条 この法人は、教育基本法および学校教育法に従い、キリスト教精神に基づき女子の大学を設置することを目的とする。

#### 津田塾大学学則（抜粋）

第1条 この大学は女子に広く高度な教養を授けるとともに、専門の学術を教授研究し、キリスト教精神により、堅実円満にして自発的かつ奉仕的な人物を養成することを目的とする。

第2条 本学に学芸学部および総合政策学部を置く。

2 学芸学部には英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力量科、数学科および情報科学科を置く。

3 総合政策学部には総合政策学科を置く。

第3条 学芸学部英語英文学科は、言語や文化を総合的な視点でとらえ、英語を通じて異なる文化的背景を探究する考察力と人間を洞察する力量を培い、高度な英語力を基盤とした専門的学識と広い視野をかね備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

2 学芸学部国際関係学科は、政治・法、経済、文化、社会、地域などの多様な視点から、英語と第二外国語を基盤として、現代世界の諸問題を国際的かつ学

際的に考察し、広い視野と独自の洞察力をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

- 3 学芸学部多文化・国際協力量科は、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、より良い「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案でき、国内外問わず「今ある状況」をよりよくするためにはどうすれば良いのか、それぞれの場で変革を担う人材の育成を目的とする。
- 4 学芸学部数学科は、数学の学習・研究を通じ、高度な分析力や論理的思考力および問題解決能力を養成するとともに、情報処理技術を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
- 5 学芸学部情報科学科は、情報科学の専門知識とコミュニケーション能力を身につけ、最新のコンピュータや通信技術を駆使して、IT関連のさまざまな問題を創造的に解決できる情報科学のプロフェッショナルとして、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
- 6 総合政策学部総合政策学科は、社会の諸相を的確に把握する認識力と分析力、英語を用いた高度なコミュニケーション能力を養い、現代社会が直面する諸課題の解決を通じて新しい社会の仕組みを作り出すことのできるリーダーシップを備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

#### 津田塾大学大学院学則（抜粋）

第1条 津田塾大学大学院（以下「本大学院」という。）はキリスト教精神に基づく学部の教育の基礎の上に、専門の学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

（研究科の目的）

- 第2条 文学研究科は、英米文学、英米文化、英語学、コミュニケーション、英語教育などについての専門の学術理論および応用を教授研究すると同時に、英語力にも優れた人材を育成し、社会に貢献することを目的とする。
- 2 理学研究科は、数学あるいは情報科学を通じて学生の「自ら考える能力」を高め社会で活躍できる有用な人材を育むことを目的とする。
- 3 国際関係学研究科は、現代世界の諸問題を地域や具体的事象に即して、学術的に解明できる専門家の育成を目的とする。

#### (2) 学校法人の沿革

1948（昭和23）年3月25日

「津田塾大学」設置

1951（昭和26）年2月26日

学校法人津田塾大学設立認可

## (3) 設置学科・研究科等

設置年月	設置学科・研究科等
1948（昭和23）年4月	英文学部設置
1949（昭和24）年4月	数学科増設。英文学科、数学科を持つ学芸学部となる
1963（昭和38）年4月	文学研究科（修士課程）英文学専攻
1963（昭和38）年4月	理学研究科（修士課程）数学専攻
1965（昭和40）年4月	文学研究科（後期博士課程）英文学専攻
1969（昭和44）年4月	学芸学部国際関係学科
1972（昭和47）年4月	理学研究科（後期博士課程）数学専攻
1974（昭和49）年4月	国際関係学研究科（修士課程）国際関係論専攻
1976（昭和51）年4月	国際関係学研究科（後期博士課程）国際関係論専攻
1996（平成8）年4月	学芸学部数学科を情報数理科学科と改称
2006（平成18）年4月	学芸学部情報数理科学科を改組し、数学科と情報科学科を新設
2010（平成22）年4月	理学研究科（修士課程）情報科学専攻
2012（平成24）年4月	理学研究科（後期博士課程）情報科学専攻
2017（平成29）年4月	総合政策学部総合政策学科開設
2019（平成31）年4月	学芸学部多文化・国際協力学科開設、英文学科の名称を英語英文学科に名称変更

## (4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

## ①入学定員、収容定員、現員数等

## 入学定員・収容定員

	学科・研究科	入学定員	収容定員
学芸学部	英語英文学科	220人	880人
	国際関係学科	200人	800人
	多文化・国際協力学科	70人	280人
	数学科	45人	180人
	情報科学科	45人	180人
総合政策学部	総合政策学科	110人	440人
大学院	文学研究科修士課程	15人	30人
	文学研究科後期博士課程	5人	15人
	国際関係学研究科修士課程	10人	20人
	国際関係学研究科後期博士課程	3人	9人
	理学研究科修士課程	10人	20人

	理学研究科後期博士課程	3人	9人
--	-------------	----	----

2019年度在籍者数

(2019.5.1現在)

(学部)

(単位 人)

学芸学部	1年	2年	3年	4年	計
英語英文学科	245	268	278	325	1116
国際関係学科	235	276	265	372	1148
多文化・国際協力学科	84	—	—	—	84
数学科	51	59	61	51	222
情報科学科	52	56	64	58	230
計	667	659	668	806	2800

総合政策学部	1年	2年	3年	4年	計
総合政策学科	116	105	151	—	372

(大学院)

(単位 人)

	修士課程			後期博士課程				
	1年	2年	計	1年	2年	3年	計	
文学研究科	23	18	41	1	1	9	11	
国際関係学研究科	3	3	3	6	1	0	3	4

理学研究科	5	8	13	0	0	2	2
数学専攻	(2)	(5)	(7)	(0)	(0)	(1)	(1)
情報科学専攻	(3)	(3)	(6)	(0)	(0)	(1)	(1)
計	31	29	60	2	1	14	17

### 留学生数

#### 2019年度受け入れ

交換（学部）	13人	所属：英語英文学科1 国際関係学科10 数学科1 総合政策学科1 国籍：オーストラリア1、フランス3、ドイツ1、 フィリピン1、韓国5、台湾2
私費（学部）	6人	所属：国際関係学科3 数学科2 総合政策学科1 国籍：韓国1、中国5
私費（大学院）	1人	所属：文学学研究科修士課程1 国籍：中国1
国費（大学院）	0人	
計	20人	

※交換・・・2019年度内受入実績（2019年4月1日～2020年3月31日に受入れを開始した人数）

※私費及び国費・・・2019年度在籍者数

#### 2019年度派遣

交換・派遣（学部）	33人	アメリカ9、英国5、オーストラリア4、台湾2、フィリピン1、 中国3、韓国4、香港1、ドイツ2、フランス1、韓国1
交換（大学院）	0人	
私費（学部）	18人	アメリカ4、ベトナム6、オーストラリア2、カナダ1、マレーシア2、アイルランド1、南 アフリカ1、中国1
私費（大学院）	1人	ベトナム1

計	53人
---	-----

※4年制大学ならびに大学院へ半年または1年間の留学を2019年度内（2019.4.1～2020.3.31）に開始した学生の数

2019年度学部卒業者数（単位：人）

英語英文学科	258
国際関係学科	300
数学科	45
情報科学科	53
計	656

2019年度大学院修了・終了者数（単位：人）

	文学研究科	国際関係学研究科	理学研究科	計
修士学位授与	13	3	8	24
博士学位授与	0	0	0	0
博士単位取得後満期退学	1	0	1	2
博士学位授与（満期退学後）	0	0	0	0

2019年度退学者数（単位：人）

	一身上の都合	他大学入学	他大学院入学	健康上の理由	死亡	進路変更	経済的事情	勉学意欲喪失	在学期間満了	計
学部	1	21	-	0	1	3	1	6	0	33
大学院	1	0	0	1	0	0	0	0	2	4

2019年度4年生留年者数（2020年3月31日現在）（単位：人）

	英語英文	国際	数学	情報	計
留学による単位不足	4	14	0	0	18
休学による単位不足	19	19	1	1	40
その他の理由による単位不足	36	35	4	4	79
合計	59	68	5	5	137
4年生在籍者*に対する割合(%)	18.61	18.48	10.00	8.62	17.28

\*2019年度卒業生数 + 4年次留年者数

### 2019年度進路状況表

		英語英文		国際		数学		情報		合計		前年度	
卒業生数		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	%	
卒業生数		258		300		45		53		656		627人	
求職者数(就職希望者)		229	88.8%	269	89.7%	38	84.4%	48	90.6%	584	89.0%	87.0%	
卒業後の進路	就業者	就職者	222	87.6% (98.7)	260	88.3% (98.5)	34	82.2% (97.4)	48	90.6% (100.0)	523	87.8% (98.6)	85.6% (98.5)
		自由業	0		0		0		0		0		
		家業従事	0		1		0		0		0		
		自営業	1		0		0		0		1		
		1年以上の有期限雇用	3		4		3		0		13		
	進学	大学院	8	3.1%	13	5.7%	4	8.9%	4	7.5%	29	5.0%	6.4%
		大学	0		1		0		0		1		
		留学(大学院)	0		3		0		0		3		
		留学(大学)	0		0		0		0		0		
		その他進学	0		0		0		0		0		

無業者	専修学校等	3	8.1%	0	5.3%	0	8.9%	0	1.9%	5	6.4%	8.1%
	家事従事	1		1		0		0				
	各種試験等及び進学準備	8		5		3		0				
	アルバイト	0		0		0		1				
	1年未満の有期限雇用	1		0		0		0				
	求職者で未決定	3		4		1		1				
	その他	5		6		0		0				
	不明	3		1.2%		2		0.7%		0		

教員

公務員（合計27人）

専任教員：13人

・国家公務員（小計7人）

・地方公務員（小計20人）

英文：6人

英文：4人

英文：8人

国際：3人

国際：2人

国際：12人

数学：4人

数学：0人

数学：0人

情報：0人

情報：1人

情報：0人

## (5) 役員の概要

### ①定員数、現員数、氏名等

(2020年7月2日現在)

定員数 理事10人、監事2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	島田 精一	非常勤	平成24年12月理事就任 平成25年4月理事長就任
常務理事	高橋 裕子	常勤	平成28年4月理事就任 平成28年4月常務理事就任（学長）
理事	青柳 龍也	常勤	平成28年4月理事就任
理事	板東 久美子	非常勤	平成29年10月理事就任
理事	飯野 正子	非常勤	平成30年7月理事就任



理事	岩田 喜美枝	非常勤	平成25年6月理事就任
理事	萱野 稔人	常勤	平成29年4月理事就任
理事	酒井 真喜子	非常勤	平成18年7月理事就任
理事	高島 肇久	非常勤	平成23年7月理事就任
理事	武田 万里子	常勤	平成27年7月理事就任
監事	川崎 悦道	非常勤	平成26年6月監事就任
監事	大西 由辰	非常勤	平成29年7月監事就任

②前会計年度の決算承認に係る理事会開催日後の退任役員

なし

(6) 評議員の概要

①定員数、現員数、氏名等

(2020年7月2日現在)

定員数21～24人

氏名	主な現職等
有賀 夏紀	埼玉大学名誉教授
板東 久美子	日本司法支援センター理事長
グレゴリー・クラーク	国際教養大学理事
江川 雅子	一橋大学大学院商学研究科教授
藤川 鉄馬	元 立命館大学経済学部客員教授
日納 義郎	住友重機械工業（株）名誉顧問

飯野 正子	一般社団法人津田塾大学同窓会会長
池上 嘉彦	東京大学名誉教授
伊藤 雄二	慶應義塾大学名誉教授
松浦 佐江子	芝浦工業大学システム理工学部電子情報システム学科教授
三砂 ちづる	津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科教授
三澤 健宏	津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科教授
中根 千枝	東京大学名誉教授、日本学士院会員
中屋敷 厚	津田塾大学学芸学部数学科教授
大崎 仁	大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長特別顧問
大島 美穂	津田塾大学総合政策学部総合政策学科教授
尾崎 哲	野村アセットマネジメント（株）取締役会長
酒井 真喜子	法務省難民審査参与員
佐藤 康博	（株）みずほフィナンシャルグループ取締役会長
高橋 秀明	元慶應義塾大学特任教授
内海 房子	独立行政法人国立女性教育会館理事長
山本 真之	津田塾大学 事務局長
山内 久明	東京大学名誉教授

(7) 教職員の概要

教育職員（2019年5月1日現在）

学長を除く。特任教員を含む。

（単位：人）

		専任					兼任講師
		教授	准教授	講師	助教	計	
学芸学部	英語英文学科	13	9	4	2	28	349
	国際関係学科	13	10	5	1	29	
	多文化・国際協力学科	4	3	1	0	8	
	数学科	4	4	0	1	9	
	情報科学科	6	3	0	1	10	
	教職課程	1	0	0	0	0	
	計	40	29	3	6	78	
総合政策学部	総合政策学科	12	2	0	1	15	76
大学院	文学研究科	1	0	0	0	1	6
附属機関		1	0	1	0	2	1
計		54	33	4	7	98	335

事務職員（2019年5月1日現在）（単位：人）

専任	84	特任職員含む
嘱託	7	
パートタイマー	24	
計	115	

他に非常勤職員2人、派遣職員20人

## 2. 事業の概要

### 2.1 重点事業

2019年度は重点事業として以下の事業を実施した。

(教育分野)		
	重点事業項目	報告
1	<p>新設学部・学科等の着実な発展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ★学芸学部 多文化・国際協力量科 (2019年度設置)</li> <li>● 学芸学部 英語英文学科 (2019年度名称変更、2020年度新専攻開始)</li> <li>● 学芸学部 デジタルメディア副専攻 (2018年度開始)</li> <li>● ★文学研究科 英語教育研究コースのインターネット通学制度 (2019年度開始)</li> <li>● 総合政策学部 総合政策学科 (2017年度設置)</li> </ul>	<p>計画通り設置 入学者84名</p> <p>計画通り名称変更、新専攻設置 入学者244名</p> <p>計画通り実施</p> <p>計画通り実施 入学者11名中6名がインターネット通学制度利用 (インターネット通学制度登録者総数は7名)</p> <p>設置計画通り 2017年度入学者数：162 2018年度入学者数：105 2019年度入学者数：116 2020年度入学者数：112</p>
2	<p>全学の教育体制検討</p> <p>2017年に設置した総合政策学部が完成年度を終え、2学部化が完成した後(2021年度以降)の全学の教育体制(大学院、共通教育、理系学部/学科、英語英文学科再編など)を検討する</p>	<p>全学将来構想委員会を設置し、検討を開始した。</p>
	重点事業項目	報告

3	<p>内部質保証体制構築</p> <p>大学基準協会による次回の大学評価（2024年度）に向けて、IR機能を強化しエビデンスに基づく内部質保証体制を構築する。</p>	<p>内部質保証体制の設計方針を決めた。大学運営会議を「全学内部質保証推進組織」とし、「内部質保証の手続」を制定する方向で検討中。</p>
(研究分野)		
	重点事業項目	報告
4	<p>研究ブランディング事業の推進</p> <p>2018年度に採択された私立大学研究ブランディング事業を推進し、本事業の研究拠点となるセンター（The Diversity Center for Inclusive Leadership）を拡充する。 事業名：「変革を担う女性」の持続的育成を目指した「インクルーシブ・リーダーシップ研究」拠点の形成</p>	<p>計画通り実施。</p> <p>9月よりポータルサイトを開設。 <a href="https://dcfil.tsuda.ac.jp/">https://dcfil.tsuda.ac.jp/</a></p> <p>リーフレット <a href="https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0417.html">https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0417.html</a></p> <p>9月28日（土）に私立大学研究ブランディング事業シンポジウム2019開催。 <a href="https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0928.html">https://dcfil.tsuda.ac.jp/topics/0928.html</a></p> <p>事業の進捗状況 <a href="https://dcfil.tsuda.ac.jp/project/oa3e7a00000000ef-att/2019report.pdf">https://dcfil.tsuda.ac.jp/project/oa3e7a00000000ef-att/2019report.pdf</a></p>
(社会貢献分野)		
5	<p>120周年記念事業</p> <p>2020年の創立120周年に向けて、建築、出版、イベント、募金等の記念事業を実施する。</p>	<p>120周年記念関連イベント（式典、シンポジウム及びホームカミングデー）検討、準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の収束見通しが立たないため、開催延期が決定した。 120周年記念事業のウェブサイトを10月中旬に開設した。 <a href="https://120th.tsuda.ac.jp/">https://120th.tsuda.ac.jp/</a> 募金趣意書が完成し、12月より募金が始まった。</p>

6	<p>東京オリンピック・パラリンピック期間の千駄ヶ谷キャンパス活用</p> <p>メイン会場至近の千駄ヶ谷キャンパスの活用を検討する。連携協定先や地元自治体との共同企画、学生主体の梅五輪プロジェクトなどを推進する。</p>	<p>JTBに運営を委託して実施することとした。</p> <p>大学とJTBで企画の詳細を検討していたが、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期となったため、凍結中となっている。</p>
重点事業項目		報告
(基盤分野)		
7	Tsuda Vision 2030	

	<p>Tsuda Vision 2030の実現に向けて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略推進本部を中心に国際化推進、大学広報、生涯教育、理系強化等の事業を引き続き推進する。</li> <li>・その他の基礎分野事業も含め、実施計画を中期計画に展開する。</li> </ul>	<p>国際化に向けた大学広報は、5月に2週間、アメリカ各都市で説明会、高校訪問実施、7月に台湾にて説明会参加、10月にオンラインでLAの説明会に参加。公式ウェブサイト英語版の内容の拡充した。</p>
8	<p>小平キャンパスマスタープラン策定</p> <p>小平キャンパスの良さを継承しつつ、新しい時代に適応したキャンパスを実現するために、2018年度に選定した設計者と共にマスタープランを策定する。</p>	<p>2020年1月24日の理事会で策定案を提案し、3月2日の理事会で基本計画のローリング計画の変更の可能性を了承、今後の進め方を承認した。</p> <p>2020年7月2日の理事会でコロナの影響を踏まえた進め方を報告予定。</p>
9	<p>千駄ヶ谷キャンパス第2期計画の検討</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック以降の千駄ヶ谷キャンパス第2期計画を検討する。</p>	<p>千駄ヶ谷地区の街づくりと合わせて検討中</p>
10	<p>学生教員比と学生定員・教職員定員・学費の検討</p> <p>さらに質の高い少人数教育を提供するために、1990年代から一定であった学生教員比を見直し、2020年度からの学生定員・教職員定員・学費を検討する。</p>	<p>財務・事業計画会議の下にST比定員学費等検討ワーキンググループを作り、検討。</p> <p>6月25日中間報告をまとめた。</p>
11	<p>業務改革推進</p> <p>小平のセンターオフィスをリニューアルし、それを契機にペーパーレス化、システム化、BPRを一気に加速させる。また、キャリア開発プログラム制度等、制度面の改革も行う。</p>	<p>センターオフィスのリニューアルを計画通り実施済。</p> <p>ペーパーレス化はかなり進捗した。</p> <p>キャリア開発プログラム制度の進捗が遅れている。</p>

12	<p>中期計画策定</p> <p>本学の長期ビジョンであるTsuda Vision 2030を着実に実現するために、2020年度からの中期計画を策定する。</p>	<p>中期計画の基礎資料を基に拡大財務・事業報計画会議で取り纏め、2020年3月2日の理事会で提案され、3月27日の評議員会に諮問し、同日の理事会で承認された。</p>
----	---	--

## 2.2 経常事業

基本方針に従い、経常事業として以下の事業を行った。

2.2.1 教育事業		
(教育分野)		
2.1 正課教育		
	事業項目	報告
1	総合政策学部の完成年度までの年次計画を着実に実施	計画通り実施。
2	4ターム制、カリキュラム変更を着実に実施	計画通り実施。
3	<p>英語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部英語試験（文系 TOEFL-ITP、理系 TOEIC-IP）実施 全1年生対象。（学芸学部は入学時および1年次終了時の2回、総合政策学部は1年次修了時1回）</li> <li>● e-learning教材の活用 英語の基礎力増強と授業外学習のためにe-learning教材を活用 対象は1年生、入学前教育、教材教具論関連科目受講者</li> </ul>	<p>計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。 SD研修の自己研修の位置づけで、職員研修用として職員（直接雇用者）の希望者（上限50名）に登録キーを付与。</p>
4	<p>TAの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ティーチング・アシスタント（TA）活用による学習</li> </ul>	計画通り実施。



	<p>相談・履修指導 年間17科目、TA30名程度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受講者が多い授業科目にクラス・アシスタント（CA）を配置 年間25クラス</li> </ul>	<p>計画通り実施。（40クラス予定 配置実績25クラス）</p>
5	<p>大学院生研究活動支援費支給</p>	<p>計画通り実施。（2019年度17件採用。予算総額90万円、支給額総額42万円弱。）</p>
6	<p>FD支援費によるプロジェクトを実施 教育・学習方法等改善のための事業についての経費を補助</p>	<p>計画通り実施。（2019年度は7件採用。総額200万円。）</p>
7	<p>ライティングスキル向上のための少人数(20人以下)授業科目の開講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1年次レベルの英語ライティングに特化した授業 55クラス開講</li> <li>● 2年次レベルの英語ライティングに特化した授業 40クラス開講</li> <li>● 3年次レベルの英語ライティングに特化した授業 21クラス開講</li> <li>● 日本語ライティングに特化した授業 8クラス開講</li> </ul>	<p>計画通り実施。（学芸35、総合政策21）</p> <p>計画通り実施。（学芸37、総合政策31）</p> <p>計画通り実施。（学芸23）</p> <p>計画通り実施。（9クラス予定のところ8クラス開講）</p>
8	<p>学外学修科目（インデペンデントスタディ、インターンシップ、サービスラーニング</p>	<p>計画通り実施。（インデペンデントスタディ141名、インターンシップ55名、サービスラーニング63名）計259名</p>
2.2 学生支援		
2.2.1 国際センター事業		
	<p>事業項目</p>	<p>報告</p>
9	<p>協定校との交換・派遣留学制度の継続および拡大</p>	<p>計画通り実施。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生交流協定大学12ヶ国・地域 29大学</li> <li>● 新規協定大学：オーストラリア1大学（ディーキン大学）と学生派遣を開始</li> <li>● 新規協定候補大学との交渉（ベトナム、アメリカ合衆国）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● University College Dublin, College of Social Sciences &amp; Law and College of Arts &amp; Humanitiesと学術交流協定を締結。</li> <li>● 新規協定候補大学との交渉（ベトナム：ハノイ国家大学外国語大学、英国:ロンドン大学SOAS、アメリカ合衆国：Mount Saint. Mary's University</li> <li>● 派遣協定から交換協定への移行プロセスを開始：インディアナ大学パーデュー大学インディアナポリス（アメリカ合衆国）</li> </ul>
10	海外留学、海外語学研修、海外研修等の活動の支援（奨学金等獲得支援を含む）	計画通り実施。
11	<p>奨学金制度の継続実施 ＜本学奨学金＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 協定に定められた受入交換留学生への給付奨学金：1ヶ月8万円 10ヶ月を上限</li> <li>● 海外留学（派遣・受入）奨学金：給付奨学金1人50万円を上限</li> <li>● 海外活動奨励金 給付奨学金：45人（1人8万円を上限1年生優先枠あり）海外語学研修奨学金 給付奨学金：50人（1人8万円を上限 英・仏・独・西・中・韓・露の7ヶ国語対象）</li> </ul> <p>＜学外奨学金＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣受入・短期派遣）による給付奨学金の獲得および支給継続実施</li> </ul>	<p>概ね、計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～による給付奨学金の獲得支援および支給継続実施</li> <li>● 日本学生支援機構留学生受入促進プログラム（学習奨励費）による給付奨学金の獲得および支給継続実施</li> <li>● 外国人留学生対象民間奨学金、および留学支援のための各種奨学金の獲得支援</li> </ul>	<p>計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。</p> <p>計画通り実施。</p>
12	個別相談、留学フェア、協定校説明会等各種説明会、「津田塾生のための留学ハンドブック」、「国際センターNewsletter」による留学・海外活動支援情報の提供	<p>計画通り実施。</p> <p>国際センターホームページのリニューアルを行った。<a href="https://cie.tsuda.ac.jp/index.html">https://cie.tsuda.ac.jp/index.html</a></p>
13	危機管理説明会、「留学生危機管理サービスOSSMA」利用等による危機管理の注意喚起および体制整備	計画通り実施。
14	外国人留学生対象民間奨学金、および留学支援のための各種奨学金の獲得支援	<p>計画通り実施。</p> <p>1名の学生が学習奨励費を受給した。</p>
15	<p>語学研修実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 夏期：ヨーク大学（英国）、マギル大学（カナダ）、インディアナ大学アメリカ）の継続実施、総合政策学科を主な対象とする新規プログラム（Univ. of Minnesota, Twin Cities, Kingston University, London）の実施</li> <li>● 春期：キングストン大学（英国）の継続実施</li> </ul>	夏期、春期ともに概ね計画どおり実施。ただし、ミネソタ大学とのプログラムは引率者との調整がつかなかったことから、実施には至らなかった。
16	国際交流方針に基づく、High Level協定校への留学促進のための英語強化プログラム、英文	IELTS学内試験については、9月、12月に行った。他計画どおり実施している。

	ライティング講座 (E-mail) を継続実施、IELTS学内試験の継続実施 (前後期各 1 回)	
17	本学での研修、訪問団等の受入れの継続	計画通り実施。(2019年6月13日に日米教育委員会からの研修団を受入)
2.2.2 キャリアセンター事業		
	事業項目	報告
18	キャリア・センター千駄ヶ谷ブランチ設置	資料などを配架。
19	キャリアカウンセラーによる個別相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間の個別相談数のべ1500件見込み</li> </ul>	2019年4月より小平キャンパス2名、千駄ヶ谷キャンパス1名のキャリア・カウンセラーを配置。年間の個別相談件数は延べ1813件。
20	キャリア教育科目開講 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3科目を開講。のべ120名以上の履修者登録者を目指す</li> </ul>	計画通り実施済み。第2タームに4科目を開講。科目登録者数の最終数はのべ65名、科目登録をせず受講した者が90名、合計155名。
21	低学年のキャリアプラン形成のためのガイダンスの実施	計画通り実施。1・2年生対象のガイダンスを12月中旬に実施。
22	就職活動の各段階において、様々な学生のニーズに応えるガイダンスの実施 (業界研究講座、教員採用試験、公務員採用試験のためのプログラム、大学院進学説明会、マスコミ講座など80講座)	計画通り実施。主要なガイダンスは小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパスにおいて同内容を実施。(120講座)
2.2.3 ライティングセンター事業		
	事業項目	報告
23	日本語および英語ライティングに対する個別相談の継続 (目標: 延べ450件)	計画通り実施。(相談件数539件)
24	小平キャンパスのみならず千駄ヶ谷キャンパスでも日本語ライティングの個別相談を実施	計画通り実施。(英語ライティング12名、日本語ライティング151名)

25	初年次教育の一つとして、学部新入生を対象とした「レポートの書き方講座」の実施（目標：全新生の受講）	計画通り実施。 （学芸学部：665名／654名 98.3%、総合政策学部：98名／116名 84.4%）
26	「レポートの書き方小冊子」のWeb化	計画通り実施。
27	高校生エッセー・コンテストによる高大連携事業の継続（目標：応募件数700件）	計画通り実施。（応募件数 872件）
2.2.4 学外学修センター事業		
	事業項目	報告
28	文部科学省2015年度 大学教育再生加速プログラム（AP）テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）採択事業実施	計画通り実施。（学外学修成績確定者 259名）
29	学内広報の強化、学外広報の強化	学科周年事業、新学科特設サイトの充実、HPの全面リニューアルなど、計画通り実施 ニュースレター発行
30	学生の送出し開始（1カ月以上の長期学外学修活動への送出し目標：80人）	計画通り実施。（1ヶ月以上の学外学修活動実施者168名。）
31	活動に必要な倫理教育の実施	計画通り実施。（全専任教員に実施済み）
32	活動中の安全管理体制の強化	計画通り実施。 OSSMAを引き続き導入中。学内体制も学長室を中心に役割を整備。
33	国内外における長期学外学修活動受入先の開拓（目標：新規5件）	新規プログラム5件 <ul style="list-style-type: none"> <li>● JALとの新規PBLプログラム</li> <li>● パソナグループでの新規インターンシッププログラム</li> <li>● 日立システムズとの新規PBLプログラム</li> <li>● 成田空港通訳ボランティアプログラム</li> <li>● 香川大学との連携プログラム</li> </ul>
2.2.5 修学支援事業		

	事業項目	報告
34	大学院修学奨励奨学金（給付） 大学院生への給付奨学金により、優秀な入学志願者を増やし、成績上位者で経済的困難を抱える大学院生の修学支援。学費の半額を修士課程8名に2年間、博士課程3名に3年間支給。	計画通り実施。
35	予約給付型奨学金「<津田スピリット>奨学金」 成績優秀で経済的困難を抱える地方からの進学者を支援。50万を4年間支給。	計画通り実施。（応募25名、採用15名、入学1名）1名に対して支給。
36	セミナーを中心とした担当教員による「きめ細かい学生指導」による修学支援を強化	計画通り実施。
2.2.6 課外活動支援事業		
	事業項目	報告
37	課外活動奨励金 サークル活動を支援し、キャンパスライフにおける文化・学術活動の活性化を図る	計画通り実施。 小平キャンパス 申請のあった32団体に対し140万円を支給。（予算額140万円）  千駄ヶ谷キャンパス 申請のあった5団体に対し20万円（予算額20万円）
38	津田塾祭援助金 津田塾祭・千駄ヶ谷キャンパス祭の活性化を図る	計画通り実施。 津田塾祭援助金 申請のあった20団体に対し1,039,000円。（予算額150万円 来場者数は4,982名）  千駄ヶ谷キャンパス祭援助金 申請のあった8団体に対し200,000円。（予算額20万円 来場者数は867名）
2.2.7 ウェルネス・センター事業		
	事業項目	報告

39	学生及び教職員の健康管理に係る企画、調査及び報告書作成	計画通り実施。 歯の健康フェア2019実施（10月9日 小平キャンパス 136名、10月7日 千駄ヶ谷キャンパス 18名） 衛生講習会実施。学園祭の衛生管理。インクルーシブ教育支援活動の協力
40	学生及び教職員の健康診断の企画、実施（大学生精神医学的チェックリスト（UPI）を用いて新入生の心身の健康状態を把握）	計画通り実施。（UPI受検者 785名） （健康診断後の再検査・証明書発行 小平キャンパス 454名、千駄ヶ谷キャンパス 60名）
41	学生及び教職員の各種相談（健康、学生生活等）	計画通り実施。（相談者：小平キャンパス2066名、千駄ヶ谷キャンパス301名）
42	学生及び教職員の応急処置	計画通り実施。（医務室利用者：小平キャンパス982名、千駄ヶ谷キャンパス533名）
2.2.8 インクルーシブ教育支援事業		
	事業項目	報告
43	インクルーシブ教育支援室およびインクルーシブ教育支援活動室における活動を継続	計画通り実施。 インクルーシブ教育支援研修実施。（修了者159名） 障害のある学生50名やそれに類する事例に対し、必要に応じて合理的配慮や相談対応を実施。 学生・教職員向けに、インクルージョンに不可欠な知識を学ぶ研修・講演会事業を実施。
2.3 学生募集		
	事業項目	報告
44	ガイドブック制作	計画通り実施。
45	学外進学相談会、高校教員、高校生に対する大学説明を2018年度と同程度に実施 （参考）2018年度参加実績 高校内大学説明会及びガイダンス参加40、模擬授業31、指定校関連高校訪問145	計画通り実施。
46	オープンキャンパス 小平キャンパス： 7/14,8/10,8/11,3/24	7月、8月については計画通り実施。3月は新型コロナ感染拡大防止のため行事そのものを中止とした。

	千駄ヶ谷キャンパス： 7/7,8/4,3/22実施予定	
47	授業体験day@津田塾 小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパス：9/23,10/14実施	計画通り実施。
48	受験生にクリスマスカード発送 11,000件発送予定	計画通り実施。
49	ウェブによる出願の継続	受験生の利便性向上。予約型奨学金広報実施。
50	3月オープンキャンパス告知DM 3500件発送	新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため中止
(研究分野)		
2.4 研究		
	事業項目	報告
51	特別研究費 13件、総額817万の研究プロジェクト実施	計画通り実施。
52	研究ブランディング研究費 文部科学省による支援の期間の3年間のうち2年目	計画通り実施。 事業の進捗状況 <a href="https://dcfil.tsuda.ac.jp/project/oa3e7a00000000ef-att/2019report.pdf">https://dcfil.tsuda.ac.jp/project/oa3e7a00000000ef-att/2019report.pdf</a>
53	教育研究支援体制の充実	学内研究費、科研費等の規程、マニュアルを改訂。科研費調書作成セミナーを開催し、大学院生4名を含む17名の研究員等が参加。学内ピア・レビュー制度を立ち上げ、2名の研究員が本制度を利用し両名が2020年度科研費を獲得。
54	外部資金獲得を図り、新規事業への申請および採択に向けて取り組む。	研究支援事務室の強化体制の維持（千駄ヶ谷キャンパス・ブランチオフィスの担当者配置等）を図り、外部資金獲得を支援。科研費調書作成セミナーを開催。
55	各種外部資金獲得のための試行的な企画に対する予算と採択事業実施運営に関わる経費を措置	外部資金調整費措置。（総額1000万円）
56	法令その他学内規則を遵守した適正な外部資金の管理運営のた	計画通り実施。



	めコンプライアンス研修会やe-learningによる研修を実施	APRIN e-learningを使い倫理研修を100%実施。学内研究費説明会、科研費説明会にてコンプライアンス研修、倫理研修等を実施。
57	女性研究者支援センターの運営継続	科学技術人材育成費補助金ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）に基づき、女性研究者支援を計画通り実施。予定どおり2019年度より補助金の交付はなく、内部資金（外部資金調整費）で運営している。
56	法令その他学内規則を遵守した適正な外部資金の管理運営のためコンプライアンス研修会やe-learningによる研修を実施	計画通り実施。 APRIN e-learningのシステムを使い倫理研修を100%実施済み。学内研究費説明会、科研費説明会、教授会にてコンプライアンス研修、倫理研修等を実施。
(社会貢献分野)		
2.5 外部連携・社会貢献		
	事業項目	報告
58	津田梅子記念交流館事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>津田塾フォーラム 市民生涯学習支援、地域活動支援などの公開講座15講座開講予定 在校生の英語力強化プログラム 8講座開講予定</li> <li>自主フォーラム 同窓生や在学生、教職員が中心となり、自主的に企画運営されるインターネットを使った交流の場を運営</li> </ul>	計画通り実施。
59	国連難民高等弁務官事務所 UNHCR高等教育プログラムによる難民学生受け入れとそのため の修学支援奨学金支給を継続実施	計画通り実施。
60	国連アカデミック・インパクト (UN Academic Impact)を活用して、地球的規模の課題解決へ貢献する取り組みを実施	計画通り実施。

61	多摩アカデミックコンソーシアム（TAC）の活動を継続	計画通り実施
62	GTIコンソーシアムの活動を継続	計画通り実施。
63	EU Institute in Japan（EUIJ）の活動を継続	2017年度をもってコンソーシアムは終了。単位互換制度は2019年度をもって終了。協定に基づく図書相互利用等活動も2019年度をもって終了。
64	日加戦略的留学生交流促進プログラム日本コンソーシアム（JACAC）の活動を継続	計画通り実施。
65	東京外国語大学、一橋大学、沖縄大学との単位互換制度を継続	計画通り実施。
66	大学院単位互換制度（大学院数学連絡協議会、大学院英文学専攻課程協議会、enPit）を継続	計画通り実施。
67	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）実施継続	研究計画調書に基づき、女性研究者支援事業を計画通り実施。予定どおり2019年度より補助金の交付はなく、本事業は内部資金（外部資金調整費）で運営している。
68	連携協定先との連携事業実施	関西大学との相互施設貸出、図書館利用促進。千駄ヶ谷キャンパスにて合同セミナーを開催し、学生、教職員の相互交流実施。
69	TOU（津田オープン・ユニバーシティ）オープンスクール講座を継承し運営	前年度の受講状況に鑑み、開講講座を精査し、GESDプログラム（春期3講座、秋期3講座、冬期3講座）、観光語学（春期4講座、秋期4講座、冬期4講座）、学生および企業・社会人向け講座（春期2講座、秋期2講座、冬期2講座）を開講。夏期講座としてアカデミックライティング講座を開講。新規講座として、ビジネス英語講座（秋期1講座、冬期1講座）、渋谷ハチコウ大学にて2講座を開講。
（基盤分野）		
2.6 大学広報		
	事業項目	報告

70	津田塾大学公式Webサイト運営 (2018年度リニューアル済)	計画通り実施。
71	学内広報誌『Tsuda Today』発行	計画通り実施。
72	学生・教員・職員の編集による オフィシャルウェブマガジン “plum garden”の継続	計画通り実施。
73	保護者のためのガイダンスを実施	計画通り実施。
2.7 基盤整備		
	事業項目	報告
74	旅費精算システム導入	業者選定は終了。設定が作業未了。
75	勤怠管理システム導入	運用開始。
76	IR (Institutional Research) 推進	学修行動調査他、各種調査を実施。
77	SD (Staff Development) 研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育研究の支援の一翼を担う職員の実務能力の向上ためSD研修実施</li> <li>● 職員対象にグローバル化推進支援SD研修を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5月から計6回、「会話や電話での応対中心のオーラルイングリッシュ・クラス」と「e-mailやパラグラフなど作文中心のコンポジション・クラス」を設定。(各8人受講)</li> <li>● 学長の海外出張に際し、職員が随行。(6月台湾)</li> </ul>
78	施設整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本館耐震改修およびトイレ改修</li> <li>● 7号館AV機器設備更新(第1期)</li> </ul>	計画通り実施。